



7月号

No.463

学校だより

横浜市立都田小学校 令和4年6月30日

かか たいせつ
関わることの大切さ ~身近な関係を積み重ねる~

ふくこうちょう ちば ひろおき
副校長 千葉 寛興

令和4年度のはじまり、早3か月が過ぎました。気づけば日が長くなり、本格的な夏が訪れてきました。本校では梅雨の晴れ間にペア学年での遠足や新体力テストが行われました。ペア学年の遠足では上級生が事前に計画を立て、楽しく安全に遊べるように心がけていました。また当日は丁寧な声掛けをする上級生と嬉しそうに遊ぶ下級生の姿が多くみられました。

また、6月21日と22日には4年生の高尾宿泊体験学習が行われました。子どもたちは暑い中でも最後まで頑張って高尾山の山頂を目指していました。あいにく山頂から富士山を望むことはできませんでしたが、遙かな山に向かって「ヤッホー。」と叫ぶ姿はほほえましいものでした。私にとっては3年ぶりに遠足や体験学習の引率をしましたが、子どもたちにとっては初めての行事も多く、喜びや感動もひとしおだったと思います。子どもたちにはぜひこれからも、人と人が同じ時間を過ごす素晴らしさを大切にしてほしいと考えています。

さて、私が子どもたちに同じ時間を共有する素晴らしさを大切にしてほしいと思うには理由があります。それは都田小学校の子どもたちの多くが、「人と関わることの喜びを知っている」ということです。本校の子どもたちは異なる学年の友達に対しても自分からよく声をかけます。相手の名前も自分から覚えようと、副校長の私にも「名前は何かですか?」と訊ねてきます。またこちらから話しかけても、自然な反応を返してくることも多いです。本校の子どもたちにとって、自分から人と関わることは普通のことであり、日常なのかもしれません。しかしながら自ら人と関わっていこうとする力は、簡単に身に付くものではありません。私はこのような子どもたちの姿が見られるのは、これまで、職員や保護者、地域の方々が人と関わる喜びと大切さを一つの文化として伝承した結果だと思っています。

これからの学校には「社会や世界と接点を持ちつつ、多様な人々とつながりを保ちながら学ぶことのできる、開かれた環境となること」が求められています。目の前にいる人に関心を持ち、自ら関わることの積み重ねが、異なる価値観をもつ人と関わりをもつ力の高まりにつながります。職員一同、自ら人と関わるができる本校の子どもたちの良さを、日常の学校生活の中でさらに伸ばしていきたいと考えています。



6月21日(火)の4年生高尾宿泊体験学習では、参加者全員が無事に山頂にたどり着くことができました。